

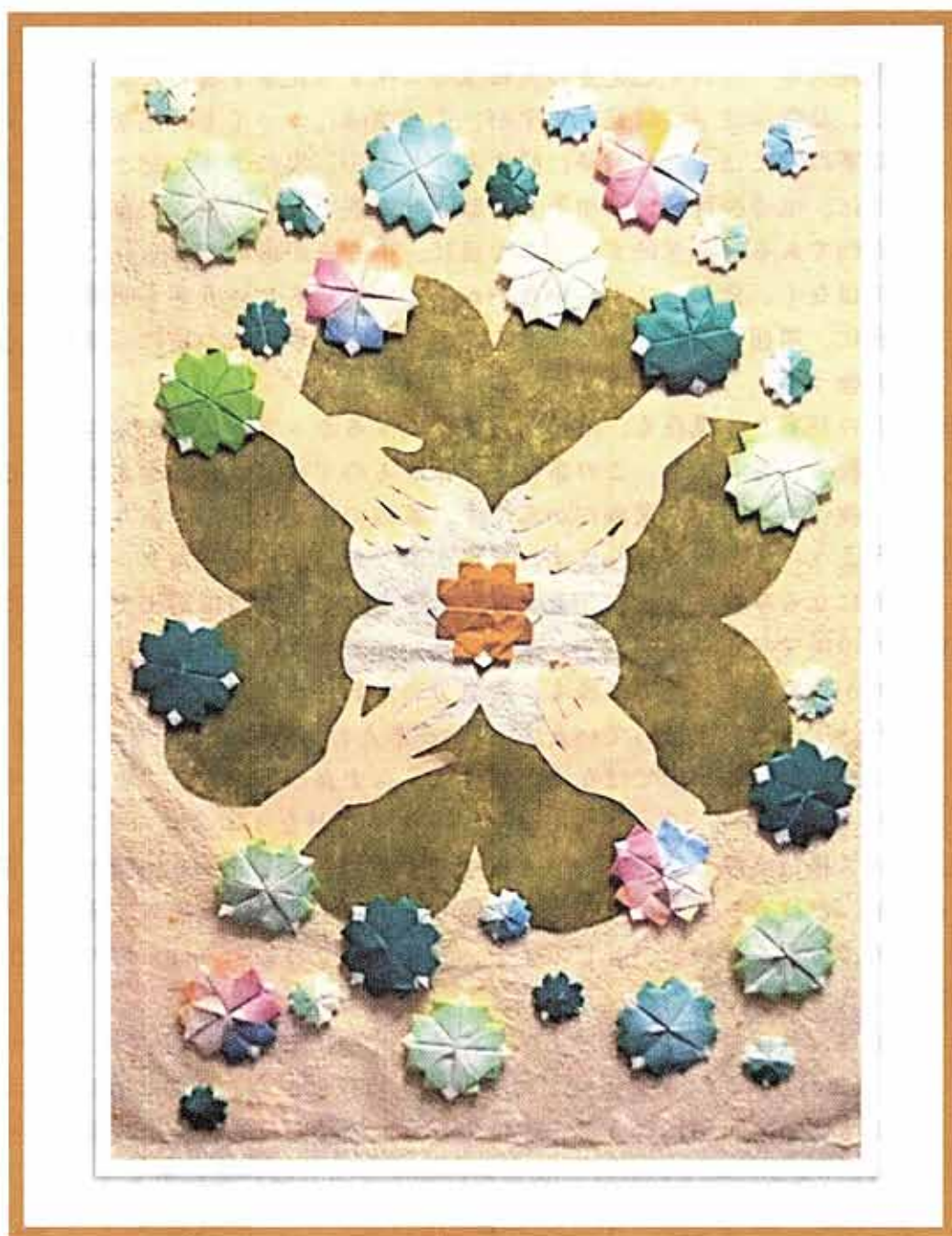
2022年
新年号

カトリック笹丘教会ニュース

No.0103



命に通じる門はなんと狭く、その道も細いことか。それを見いだすものは少ない。(マタイ7:14)





周囲に一致をもたらす事が苦手な私が、教会一致に関して、皆さんに書を認める事は、いささか僭越なのですが、1月の下旬、教会一致祈祷週間もありますので、今の私の現実から、教会一致に関する自分の考えを分かち合わせて頂きたいと思えます。

以前、筑波大学の徳田克己先生の夫婦喧嘩に関する記事を読んだことがあります。先生は、社会心理学の研究者ですが、夫婦喧嘩についても研究なさっていました。その記事の中には、夫婦喧嘩に関するルールが、次のように記されていました。一つ目に、喧嘩の目的は、相手を屈服させる事ではなく相手に自分の考えを伝える事が目的である事を意識する。二つ目に、あなたが嫌いだから、この事を言っているのではなく、分かってもらいたいから言っているという事を明確に伝える事。三つ目に、周囲の人を、特に子供を巻き込まない事。四つ目に、理解し合えるまで、話し合う事。

私は、この記事を、現在も、結婚講座を受講するカップルに分かち合っております。また、教会においても、この事は当てはまるのではないかと考えております。何故なら、教会も、一つの家族だからです。家族の中で、喧嘩があります。一人一人顔が違うように性格が異なります。性格が異なれば、誤解したり、誤解されたりして、喧嘩になる事があります。それは、大きなところでは国同士で、小さなところでは個人の間で起こる衝突です。喧嘩は無いに越したことはありません。しかし、あるのが現実です。イエス様も、御自分の宣教活動の中で、それを経験されたのでしょう。次のように仰っています。「私が来たのは地上に平和をもたらす為だ、と思つてはならない。平和ではなく、剣をもたらす為に来たのだ。私は敵対させる為に来たのだ」(マタイ10・34~35)と。何とも奇妙なイエス様の発言です。けれども、イエス様は実際、宣教生活を送る中で、このような分裂を体験され、苦しまれたのです。私達も、同じような状況に陥ります。イエス様に従って歩む限り、身近なところで分裂を体験し、苦しみます。私達は、この苦しみに、どのように対処して行けば良いのでしょうか。

イエス様は、最後の晩餐の後、父なる神様に祈られました。「全ての人を一つにしてください」(ヨハネ17・21)と。分裂の苦しみを捧げながら、そのように祈られたのです。私達も、イエス様に従う中で体験する分裂の苦しみを、イエス様に倣って捧げましょう。「父よ、全ての人が、あなたの御子イエス様の元に集まりますように」と祈りながら。

洗礼式 12.5



受洗おめでとうございます！！



エリザベト さん (24班)

アンジェラ・メリチ ちゃん、マリア・ニエベ ちゃん



洗礼



白衣の授与



塗油



ろうそくの授与



ちゃん ちゃん
ちゃんの前後ろ さん

恩師でもある
代母や友人方
に囲まれて

-ずっと放蕩娘でした-

高校、大学を長崎のミッションスクールに通っていた私は、放課後シスターからキリスト教を教わったり、フォコラーレ(マリアのみ業)という共同体を通して『皆が一つになること』を教わりました。初めて知るキリストの愛し方は、私にとって革新的で衝撃的でした。キリスト教信者の方と共に、難しい人、特に父に対して、愛の行いを挑戦したりしました。

しかし社会人になり責任者となった私は、売上を追求する日々に忙殺され、キリスト教的生き方から離れてゆきました。そして30歳を過ぎ子供が生まれ、疎遠だった親とも連絡を取らざるを得なくなった時、「ああ、私は、この人を神様なしでは愛せない…」と感じました。

2019年9月の事でした。家族も親戚にもクリスチャンがいない私は思い切って「カトリック福岡司教区」のHPに問い合わせました。そこで近所の箱崎教会を紹介していただき、ミサや洗礼のための勉強会に参加するようになりましたが、コロナや担当神父様の異動など諸事情もあって、この度ご縁のあった遠山神父様に洗礼を授けて頂きました。本当にありがとうございます。

何十年と苦しめられた父の存在が神様へ近づけてくれた事に、神のご計画を感じます。離れている間もずっと見捨てず、戻ってきた私を受け入れてくれた神に感謝です。

エリザベト



初聖体

初聖体 12.26

おめでとうございます！！



ベルナデッタ さん (8班)



ろうそくの授与



祈願



初聖体



家族で記念撮影



イエス様の匂いと味がした

—2022年 神父様方にお伺いしました—



ペトロ・フランシスコ遠山 満(みたる)神父様 1961年8月28日熊本県生まれ
2008年～笹丘教会主任 司祭叙階25周年 おめでとうございます！！

Q. 遠山神父様、還暦おめでとうございます！笹丘小教区60周年とも重なっておめでたいですね。昨年7月にはお母さまを見送られました。このような節目を迎えられた、今のお気持ちを教えてください。



A. 昨年、還暦を迎えました。ここの教会にいと、不思議な感じがします。年齢は、この教会と同じで、誕生日は、この教会の保護の聖人、聖アウグスチノの記念日だからです。母が亡くなる時まで、派遣先が、この教会であった事にも感謝しています。と申しますのは、母が危篤だった時、直ぐ帰省できたからです。

Q. ご兄弟は何人で何番目ですか？どのような少年でしたか？

A. 3人兄弟の末っ子です。7歳上の姉と4歳上の兄がいます。末っ子だったので、3人の中では、一番、甘やかされて育ったのだと思います。小さい頃、姉に、おもりをもらっていた頃の事は、今でも覚えています。



小学校入学式時

Q. 生まれ故郷の熊本県は自然災害の被害が大きかったところだったと記憶していますが、印象に残っていることを教えてください。

A. 熊本で地震が起こった時、私は、丁度、実家に帰っておりました。一度目の地震の発生は、2016年4月14日木曜日の夜で、私は、この時、未だ福岡におり、その知らせを、幼稚園の職員の方から伺いました。私は、その次の日、4月15日金曜日、八代教会の黙想会のお手伝いの為、八代教会に行く予定をしておりました。黙想会は、予定通りにあるという事だったので、私は、金曜日の午後、福岡から八代まで、車で移動しました。途中、高速道路が使えなくなっておりましたので、一般道路を車で走りました。いつもなら、休憩を入れても、3時間以内で辿り着く八代教会まで、6時間くらいを要しました。

その日の夜、八代教会で夕食をして、その後、実家に帰りました。その時、4月16日土曜日の未明、二回目の地震が発生しました。私は、筆筈の近くで寝ておりましたので、少しそこから離れて休むことになりました。大きな地震でした。体感できる地震は、1度や2度ではありませんでした。朝まで、ずっと揺れておりました。自宅は、揺れ続けておりましたが、私は、その時、腹を括り、「命は神様からのものだから、ここでジタバタしても始まらない」と、自分に言い聞かせて、二度の大きな揺れの後、次の日に備えて、早く眠るようにしました。(次ページにつづく)

(前ページのつづき) 次の土曜日と日曜日、聖堂が揺れる中で、ミサをしたり、聖体礼拝をしたりしたことが、懐かしく思い出されます。黙想会に参加する為、他県から集っていた信者さんたちは、教会近辺のビジネスホテルに宿泊していらっしゃいましたが、地震のせいで、ホテルが断水になってしまったりしましたので、後の日程に参加する事を断念して、帰宅される方々もいらっしゃいました。八代の市庁舎は、その時壊れ、5年経過した昨年、建て替え工事が行われました。まだ、地震の傷跡は、県内のあちらこちらに見られますが、多くの方達の御協力を頂きながら、復興に向かっていきます。感謝です。

Q.司祭になろうと思われたきっかけを教えてください。



今田神父様と

Q.司祭になられて、特にご苦労されたことは？

A.大学卒業後、2年間、青年海外協力隊で、ラテンアメリカのホンデラスに派遣され、そこでの体験が、動機となりました。現地で、週日は、大学の実験室で、私と同世代の大学生に物理の電子工学を教えました。週末は、教会で、小さな子供達の初聖体の準備の為、要理を教えました。1年9か月経過して、帰国が近づいて来た時、帰国後、何をしようかと思いつきました。その時、『小さな子供達に神様の事を教える為、司祭になろう』と思い始めた事が、そのきっかけとなりました。



初ミサ 神父様 35歳

A.司祭になって初めの頃は、人を見ていました。他の人が、自分をどのように評価しているのか等が気になりました。けれども今は、イエス様を見るようにしていますので、そのような事から解放されました。今は、自分の行動が、イエス様を喜ばせているのか、イエス様の思いに叶っているのか、その事を気にしながら、毎日を過ごしています。



助祭様時代

Q.遠山神父様のカリス(葡萄酒を入れる器)には、何かエピソードがありますか？

A.私は、カリスを三つ持っております。日曜日に使う金色のカリスは、アメリカの恩人から頂きました。お目にかかった事はありません。写真を通して、その方にお会いしたのみです。平日に使う銀色のカリスは、私に洗礼を授けて下さった神父様が、御自分が使っていたカリスを譲って下さったものです。彼が、叙階 50 周年を祝っていた時、私は叙階されましたので、カリスに、彼の名前と私の名前が刻まれています。三つ目のカリスは、私の出身教会、健軍教会の皆さんが、私の初誓願後、つまり叙階の 6 年前に購入し、祈りながら私の叙階を待って、叙階式後、私に手渡して下さった陶器のカリスです。それぞれのカリスに、それぞれのエピソードがあります。



Q.アウグスチノ修道会を選ばれた理由は？

A.出会いだと思います。

Q.趣味はありますか？

A.趣味は、散歩、及び地域猫や子供と遊ぶことです。

Q.好物は？

A.好物は、和食、地中海料理、インド料理、韓国料理等です。

Michael J. HILDEN (マイケル・ヒルデン) 神父様 1947年9月29日生まれ
笹丘教会 1982~1987年 2017年~協働司祭

(原文英語)

Q.生まれ故郷、お育ちになった土地は？

その土地にはカトリック信者さんが多かったのですか？

A.私はニュージャージー州のウエストビルという町で
生まれました。

1歳にならないうちに家族はペンシルバニア州フィ
ラデルフィアに引越し、私はそこで育ちました。当時
のフィラデルフィアはヨーロッパにルーツを持つ多
くの移民家族がいて約50%がカトリックでした。



Q.ご兄弟姉妹は何人で何番目ですか？

A. 私は4番目の子供で、姉二人と兄がいました。
写真の左下が私です。



Q.ご家族、ご親族の皆さんカトリック信者さんですか？

A. 母方の家族や親戚はカトリックで、父方のほとんどはルーテル派のプロテスタントでした。
父は母と結婚する直前にカトリックになりました。

Q.どのような少年でしたか？

A. 私はとてもおとなしい子供で、学校も勉強も大好きでした。
暇な時間があれば本を読んでいた。



Q.司祭になろうと思われたきっかけを教えてください。

A. 6年生の時、メリノール会の神父様がクラスにやって来て、聖職への献身について話をさ
れました。神父様は私に毎月メリノールの会誌を送ってくださり、私はたちまち世界中の
いろんな国々のカトリック教会について学ぶことに夢中になりました。

Q.アウグスチノ修道会を選ばれた理由は？

A. 私が進んだ高校はアウグスチノ会により職員が派遣されており、教員90人のうち45人がアウグスチノ会の修道士でした。そこには幸せて明るい精神が満ちていて、アウグスチノ会の先生方のこの精神は私に大きな影響を与えました。高校最後の年に、私はアウグスチノ会小神学校に加わることを願い出ました。高校卒業後アウグスチノ修練院に入り、翌年初誓願を立てました。

Q.司祭叙階式はどちらの教会で？

A. 私の司祭叙階式は、母教会であるフィラデルフィアのアウグスチノ教会で行われました。



初ミサ直前にご両親と 神父様 25 才

Q.日本に渡ることになった時の心境は？
ご家族の反応はいかがでしたか？



お兄様ご夫妻と 10 人の子供たち

A. 私が初めて日本にやって来た時、日本についてはあまり知りませんでしたが、そんなに不安には思いませんでした。なぜなら、仲間の修道士たちとのコミュニティで生活することになっていたからです。家族も日本へ行くという私の決意をなんの反対もなく受け入れてくれて、そのことに私はたいへん感謝したことでした。

Q.日本に来て一番ご苦労されたことは？

A. 一番大変だったことは私の目がほとんど役に立たなくなったことつまり、漢字が全く読めなかったことでした。昭和48年当時は、英語表記なんてほとんどされていませんでしたからね。

Q.日本の習慣でこれだけは理解できないというものはありますか？

A. 結婚式に出席した時、新郎新婦からプレゼント(引き出物)をいただいたのにはとてもびっくりしました。新婚カップルに気持ちばかりのお祝いを贈った後は、彼らから何かもらうなんて全然期待していませんでしたから。アメリカの文化は、誰かに贈り物をした時何もお返しは期待しないのです。むしろ、お返しを受け取るのはあまり嬉しくないですね。

A. 好きな聖人は聖ヨセフです。彼のキリスト教徒としての強さや、イエスやマリア様を日々陰で支える静かで謙虚な働きのゆえに。それに聖ヨセフはアウグスチノ会の守護聖人でもありますね。



Q.体調管理で気を付けていらっしゃることはありますか？

A. 食べ物では、パン、ポテト、スパゲティ、などが大好きです。でも、健康上の理由でこれらの美味しい食べ物を少し控えようと努力しています。また、出来るだけ車に乗るより歩くことを心がけています。少し歩くことは楽しいですが、運動のため、もっともっと回数も量も増やすようにしなければと思っています。

Q.ヒルデン神父様のカリス（葡萄酒を入れる器）は、金色ではなく陶器に見えますが何か思い出のある器なのでしょうか？

A. ミサの時に私が使うカリスは陶製ではありません。外側は合金で、最後の晚餐を祝うイエスと12弟子の絵がエナメルで描いてあり、内側は金メッキがしてあります。これは、叙階式の時私の家族がくれたもので、カリスの底に家族一人一人の名前が彫られています。だから、私はミサをあげるたびに彼らを覚えて祈ることが出来るのです。

Q.お好きな食べ物は？また、苦手なものはありますか？

A. 私はチョコやアイスクリームなど甘いものが好きなのですが、体のために禁止されています。好きな日本食は天麩羅です。苦手なものはたくさんあるのですが…納豆、何度か挑戦しましたがダメです。それから、多くの人がごちそうと思えるウナギもダメです、土を食べているようです…

Q.趣味はありますか？

A. 趣味としては、花の世話、読書など。良質な小説や歴史もの、ミステリーものが好きです。



Q.幼稚園の子どもたち、保護者の皆さんに向けてお話されるとき心がけていらっしゃることはありますか？

A. 幼稚園の子どもたちや親御さんたちと話す時、私は、神の創造物である私たち全てに注がれる神様の愛を知り感謝の心を持って日々を生きるように、彼らの心の目が開かれるよう努めています。

遠山神父様、ヒルデン神父様、本年もよろしくお願ひいたします。

七五三 11.14

おめでとう！！これからも健やかに育ちますように！



千歳飴をいただきました
皆、丁寧にお辞儀をしました



クリスマスバザー12.4~5

細やかな気配りで盛り上がりました！！



メンバー全員ではありませんが...

1か月という短い準備期間で、アイデアを出し合いながら励まし合いながら楽しくできました。手芸会の皆さん、最高の褒め上手なんですよ♡



宣伝隊のリハーサル
名脚本家と演出家



バザー前日、最終作業



バザー献金は修繕積立金と一部は美野島センターへ

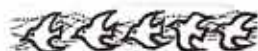
感謝！！

ミサ後、恒例の宣伝部隊によるバザーへの呼びかけ練習の成果！息ピッタリの流れに一同笑い拍手！！



成人式 1.9

新成人おめでとうございます！！



神父様から祝福を受けました

今年の笹丘教会の新成人は7名でした。そのうち2名の方が教会で祝福を受けました。

自覚をもってがんばります！！



セシリア

さん

ユリウス

さん



)ちゃん

さん(18班)のお孫さんです。ご親族が見守る中、執り行われました。

好きな聖人・私の霊名

好きな聖人は様々です。自分の霊名は、候補が二つありましたが、洗礼志願申請日11月17日が聖エリザベト記念日であるため、エリザベトを選びました。たまたまその頃私が興味を抱いていたヨーロッパの時代背景やカトリック教会の活動の中で、福祉活動に貢献したハンガリーのエリザベトが印象的でした。また東西ドイツ統一の年に家族で旅行した、マールブルクの聖エリザベト教会がとても印象に残っていました。さらに、私の誕生日がエリザベス女王と同じ日だったこともあり、勝手ながらご縁を感じた霊名でした。

実を言うと、聖人についてはあまり深く知らないのです。きっと神様からいただいたのだらうと思っています。

21班 エリザベト岩本春恵

スペインの「ことわざ」と 信仰 3

3班 ベルナルド・マリア・ビシャサンス

神は悪魔に勝る Más puede Dios que el diablo.

- 悪意より善意が強いということ。
- パロス:人はべてんを使うより正当な手段を用いたほうが目的を達せられるものである。
- スバルビィ:このことわざにより、われわれは、たとえ悪意のあるじゃまものに出くわそうと、われわれの正しい目的は遂行できるのであると勇気づけられる。
- 人類の希望は、最後には善が悪に勝つということである。世の中には悪人ばかりでなく、仏や神のような善人もたくさんいるという“仏千人神千人”のことわざが日本にもある。頼もしい限りである。

参考文献一覧

REFRANERO ESPAÑOL
 スペインの諺辞典 (2)
 新井藍子 (作者)
 Bernardo Villasan (編集)
 福岡大学研究部論集 A4(8)2005
 この作品から取った諺

ノート

パロス コレアス スバルビィ イリパレン
 スペイン人の諺の作者

ドン・キホーテスペインの小説
 作者: Cervantes(セルバンテス)

*文中のアルファベットはスペイン語です

信者の異動・秘跡



転出 2021年3月
10月
11月

転入 2021年7月

10月

11月

洗礼 2021年12月5日

結婚 2021年2月13日

4月10日

初聖体 2021年4月25日

12月5日

12月26日

編集後記

昨年末、あるシスターがこんなメッセージをそえて季刊誌を送ってくださった。

「『心を失う』ことがないよう、いつも一番大切なものは何か、そして実際に大切なものを優先しているか問いかけていたいと願っています。何よりも先ず、ほほえみと親切な行い…かな？」
マスクでお互いの表情さえ見えにくくなってしまったこの時代、それでもシスターに倣って、ほほえみを絶やさずこのように心がけていけたら。

皆さま、本年も「こみち」をよろしく願います。

(4班 テレジア 〇〇〇 〇〇〇)

発行:カトリック笹丘教会 広報委員会 2022年1月

〒810-0034 福岡市中央区笹丘1-16-1 電話:092-761-4504 fax:092-761-4524